


在留外国人と言語 (第8講)

ダブルリミテッド


この講座で学ぶこと

- ▶ バイリンガルとダブルリミテッドの違いを知る。
- ▶ ダブル・リミテッドとは何か。どのような社会的な背景から生まれたのか考えてみる。
- ▶ 減算的バイリンガリズムと加算的バイリンガリズムを知る。
- ▶ 減算的バイリンガリズムを防ぐ手立てを考えてみる。
- ▶ CALP（学習言語能力）とBICS（生活言語能力）について知る。

ダブルリミテッドとは何か

- ▶ ダブルリミテッド(double limited)とは、日本で暮らす外国人児童・生徒が、日本語の習得の遅れによって母語・日本語共に十分に発達していない状態のことを示す。
- ▶ 定住せずに親の都合で次から次と言語環境が変わって、CALPまではぐくむ時間が与えられなかった。
- ▶ 家庭環境の変化、移住の繰り返し、などで言語環境が頻繁に変わる。
- ▶ バイリンガルは二言語をマスターしていること、否定的なニュアンスはない。

BICS - CALP

- ▶ BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills
- ▶ 日常言語
- ▶ CALP: Cognitive/Academic Language Proficiency 
- ▶ 学習言語

ある移住者の子どもの例

- ▶ スウェーデンでのフィンランド人移住者の子どもの例。
- ▶ あるフィンランド人の子どもがスウェーデン語が会話能力においてはスウェーデン人の子どもと比べて何ら見劣りしないのに、学業成績になると同年輩の子供と比べて大きな落差のあるという報告が Jim Cummins の注意を引いた。
- ▶ そこで、会話能力と学業成績との間の乖離は何に由来するか原因を考える。

何故この区別を知る必要は？

- ▶ BICSとCALPを分けて捉えるべきだと Cummins は説いたが、これは画期的なことで、このような区分が知られるまでは、移住者の子供が新しい言語は普通に話せるのに授業についていけなかつたりすると、知能に問題があると疑われ、カウンセリングやら特殊教育にまわされたりするのが普通だった。
- ▶ 外国人の子どもが支援学級に入ることがある。



日本でも同じ現象が！

- ▶ ある小学校で、ブラジルからやってきたA君は半年ほどで日本語がぺらぺらになり、発音はまったく日本人と変わらないようになりました。しかし、授業は全く分からないようです。
- ▶ 音楽や体育や図画工作の時間は生き生きしていますが、社会や国語の時間などは先生の質問に全く答えられないのです。
- ▶ この現象は何を意味するのでしょうか？




そのような子どものために

- ▶ 国際教室で取り出し授業を行う
- ▶ 取り出しは国語と社会の時間に（国語と社会は日本語力に顕著な差が出る）
- ▶ やさしい言葉に言い換える
- ▶ なるべく視覚的な情報を入れる
- ▶ 説明の過程で、理解の確認をする
- ▶ 69,123人が日本語の指導が必要である。（日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れに状況に関する調査(文部科学省：2023年)



2種類の会話

- ▶ (1) これは丸い、それとも四角形？
- ▶ (2) 円の円周率は3.14..であり、円の面積の公式は半径×半径×円周率である。
- ▶ どう異なるか、なぜ(2)の文は難しいのか？ 
- ▶ 6歳の児童と12歳の児童を比べた場合、発音や会話での流暢さという点では大差がない。(声変わりをする前ならば区別は付かない)
- ▶ しかし、語彙力や読み書き能力において大きな差がある。(文章を書かせてみると大きく異なる)

二元的な構成

- ▶ 子供の言語運用能力 (language proficiency) は、不自由なく会話ができるという conversational fluency と、授業内容を理解し、それに基づいて自分で考え、かつ、その成果として読み書きができるという academic language proficiency という二元的な構成を持っている



理想的なバイリンガル

	BICS	CALP
英語	 ○	△
日本語	○	○

バイリンガル

	BICS	CALP
英語	 △	×
日本語	○	○

ダブルリミテッド・セミリンガル

	BICS	CALP
英語	 △	×
日本語	△	×

移住を繰り返し、もしも、どのCALPも×
ならば？

	BICS	CALP
日本語	○	×
英語	○	×
中国語	△	×
韓国語	△	×
スペイン語	△	×



なぜBICSは分かりやすいか

- ▶ BICSでは、互いに顔も見えており、表情や身振り手振りといった非言語的な「ヒント」もたっぷりある上、話の内容も具体的なので比較的楽にこなせる。
- ▶ CALPでは、言語による知識の伝達が主目的の授業であるから、言語で表現されていないような「ヒント」はほとんどなく、また、言語表現自体、人間社会の過去の蓄積から得られた本質を伝えようとするので、抽象的である。
- ▶ BICSはことの性質上、むずかしい単語を使うわけではないし、構文も簡単なものばかりに決まっている。
- ▶ ところが、CALPになると、抽象的な概念を扱い、使う単語も格段に難しく、また、構文も因果関係や対照的な事項を比較するための複雑なものになる。

CALPでは？

- ▶ 地理の時間では、球体としての地球なるものを抽象的に把握する必要がある。
「緯度」「経度」「赤道」に相当する言語が使われる上、理屈のとあった説明を理解するためには、不可欠のキーワードと定型的な構文を知らないと話についていけない



課題

- ▶ 自分が小学校の教員になったときに、明らかに日本語のCALPが理解できない子どもが来たときに、どのようなことを注意すべきか。
- ▶ 自分自身を振り返って、自分の日本語能力はいつ頃から、BICS→CALPへと移行したのか考えみよう。

